第１回新ごみ処理施設整備推進懇話会概要

|  |  |
| --- | --- |
| 会の名称 | 第１回新ごみ処理施設整備推進懇話会 |
| 開催日時 | 令和２年７月３０日（木）開会：午後６時００分　閉会：午後７時００分 |
| 開催場所 | 笠原公民館　講座室Ａ・Ｂ |
| 出席者 | １３名（別紙のとおり） |
| 事務局出席者 | 市長　　　　　　　原口　和久環境経済部長　　　飯塚　孝夫環境経済部副部長　髙坂　清環境課長　　　　　大島　和之環境課副参事　　　長澤　和弘環境課主任　　　　小田嶋　愛環境課主事補　　　髙橋　雅樹 |
| 傍聴者 | 否（今回が初回であり、傍聴規程を議題として、話し合ったため、傍聴者は設けませんでした） |
| 会議の内容 | １　開会２　あいさつ３　自己紹介４　懇話内容　1. 本市の今後の取り組みについて
2. その他

　５　閉会 |
| 懇話会資料 | （資料名・概要等）次第資料１　新ごみ処理施設整備推進懇話会設置要綱資料２　傍聴規程（素案）資料３　新ごみ処理施設整備推進懇話会委員名簿資料４　傍聴人受付表（素案） |
| 発　言　者 | 協議会の経過（議題・発言内容等） |
|  | ・開会・あいさつ（原口市長）・自己紹介・資料確認議題（１）について　【資料１・２を用いて説明】質疑応答議題（２）その他質疑応答【決定事項など】・傍聴を認める（懇話会委員の主な意見）・鴻巣市単独で建設した場合の選択肢も検討されたと思うが、多分費用の面で大分しんどいのかなということで、ためらったのかなと思う。そのあたりの検討結果があれば、言える範囲内で結構なので、お聞きしたい。・今気を付けなければいけないことは、人口減少である。鴻巣市も合併当初と比べて人口が減少している。それは近隣市町村も同じである。赤羽まで40分、東京駅まで55分で行ける好立地であるにも関わらず、鴻巣市も人口が伸びていない現状があるような気がする。その辺りで、新ごみ処理施設についても、人口問題というものを参考にして、規模等検討していただきたい。・昨今のごみ問題で言うと、衣類のリサイクルはほとんど東南アジア等の外国に輸出して処分していた。それがコロナ影響で、外国が受け入れをしないということになり、衣類関係は極力、自宅保管をするようにというお願いも広報に記載があった。ああいった記事を見ると、ごみ問題というのは本当に待ったなしの状況だと思う。新ごみ処理施設を作るにあたって、衣類の処分等もある程度方向性を出した方が良いのではないかと考える。・１回目の懇話会ということで、今後の取組みについてお話があったが、２回目、３回目の懇話会は、地元の意見が通るような懇話会の形でお願いしたい。・我々地元が、ごみ処理施設なんてある種の迷惑施設を受け入れた背景には、周辺の環境整備も進むということで、地元の皆さんを説得して受け入れた部分がある。周辺環境整備に非常に期待しているところである。よろしくお願いしたい。・行田市が新ごみ処理広域化の計画から抜けて、北本市と進めていくということで、規模が縮小される可能性についてお話しがあった。縮小された場合、我々地元は交通渋滞等の問題があるが、県単事業で進めている事業は、継続してやっていただけるのか。用排水の管理は非常に大事なので、お願いしたい。・先ほど、お金の問題が出ましたけれども、現在火葬場も消防も桶川が入って、一緒の広域組合を形成している。繋がりは既にある。桶川市を巻き込んで、負担金を出してもらえばいいと思う。鴻巣市の広報かがやきには近隣市の情報として、北本市以外に桶川市も載っている。広域化の方が、鴻巣市の費用負担も減り、こちらが望む規模の処理施設が叶うと推察される。検討していただければ。・処理場白紙の関係で、県道はどういう計画になるのか。もしも児童が、中央小学校へ通う場合、歩道も整備しないといけない。・今郷地橋の話が出たので、申し上げさせていただくと、郷地橋と旧郷地橋の間の道路にいくつか陥没がある。何度も補修されてはいるが、梅雨の時期に雨が続くと、傷みが進むので、環境課の方からも、県へお願いしてもらいたい。 |